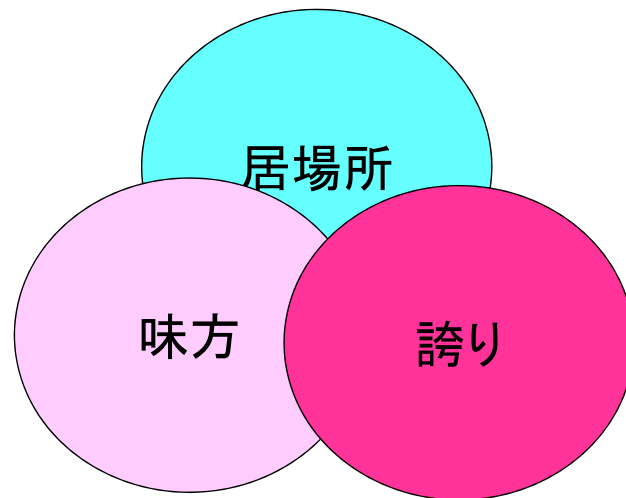


なぜ、前例を超えるの？
～3つの不運と10の幸運と～



福祉と医療・現場と政策をつなぐ「えにし」ネット
志の縁結び係&小間使い

朝日新聞科学部記者⇒論説委員⇒阪大大学院ボランティア人間科学講座
⇒国際医療福祉大学大学院 医療福祉ジャーナリズム分野

ゆき さん

魔女が飛び交う下馬の我が家へ
ようこそ ◯(^ ^◯) (◯^ ^◯) (◯^ ^)◯





書庫も、ちゃんと、ございます(^_-)-☆

10階の教授室へようこそ
長尾能雅教授がズームでジャーナリズム分野院生とゼミ中



お寄せいただいた質問・その1

私は、いつも思うのですが
ゆきさんの授業のラインナップは、
顔ぶれがユニークすぎて驚かされます。
講師選びのポイントは、
一番は何ですか？

りゅうこ

柳家花緑さんとの出会いは 列車を待つホーム



ケーキを切りわけてお皿に載せてくださったのは、
なんと、花緑さんでしたw(°o°)w



元ヤンキー・いまは介護のパイオニア
石津みっちゃんを見初めたのは
福祉の集い。

エレベーターの中、この衣装で



背広もっておられたのです



秋学期のゲストとの長いご縁

前例を超える・前例を創る～当事者の思いを、メディア・行政・司法・政治で
実現する～(現場に学ぶ医療福祉倫理)

1	9月16日	倫理と度胸と想像力と	本大学院教授 大熊由紀子
2	9月23日	「仮わる日本画」を広める 自治体・学校・医療機関への挑戦	聖心女子大学教授 杉田一成 先生
3	9月30日	当事者の立場に立って 厚生労働省で、都庁で、交えたこと、勝ち取ったこと	国際政治学者 外瀬 要一 先生
4	10月7日	障害のある人々の権利擁護 ～親として、夫として、弁護士として学んだこと～	日本弁護士連合会会長 荒 中 先生
5	10月14日	ロービジョンという視覚障害者をご存じですか ～視覚障害者の本当の全体像を理解して～	視覚障害リハビリテーション協会 前会長 吉野 由美子 先生
6	10月21日	きこえない私が痛感した 自立をさまたげる社会の大きな壁	インフォメーションギャップバスター理事長 伊藤 秀浩 先生
7	10月28日	すべての子どもに学ぶ道を 外国人の子どもの不登校ゼロをめざして	愛知淑徳大学 交流文化学部教授 小島 祥美 先生 前・文部科学省男女共同参画共生社会学習・安全課長 三好 圭 先生
8	11月4日	さまざまな挑戦 (飛び入りゲストを迎えて)	本大学院 教授 大熊 由紀子
9	11月11日	犯罪被害者の話を聞く 原点としての「性暴力」を考える	元朝日新聞編集委員 河原 理子 先生
10	11月18日	初代イクメン、 消費者行政でも前例を創る	『経産省の山田課長補佐、ただいま育休中』 著者 山田 正人 先生
11	11月25日	熊本県庁・静岡県庁のカリスマに共通するもの	熊本県地域福祉実践研究会代表 森枝 敬郎 先生 静岡県社会福祉協議会地務理事 高橋 邦典 先生
12	12月2日	条例で日本の行政を変え そして、女性受刑者の身になって	前千葉県知事 辻本 美子 先生
13	12月9日	強行検閲という言葉からおもひ浮かせるもの 『風は生きよという』と『道草』の間	社会福祉法人同慶会統括所長 大川 貴志 先生 映像作家 穴戸 大裕 先生
14	12月16日	種松死刑囚が、 津久井やまゆり園で見たこと、体験したこと	『こんな夜更けにバナナかよ』 著者 渡辺 一史 先生
15	12月23日	当事者の思いを実現するために どう、壁を乗り越えたのか～ゲストの体験から考える	本大学院 教授 大熊 由紀子

もとはといえば、あとで「登場の
竹内支局長からいただいた黒革の手帳



「筆まめ」に7339人
年賀状約3000人
「えにしメール」を受けてくださる方
19か国6000人余

お寄せいただいた質問・その2

20日の最後の講義、ゆきさんご自身の歩みが、もしも可能でしたら知りたいです。

いつごろから新聞社を意識されたのか、それはなぜなのか。

また、ゆきさんをずっと突き動かし続けているものがあれば知りたいです。

新聞記者に始まり、デスクになり、大阪大学、そして今の大学、振り返られて、何をしているときが一番充実されていたか、

ゆきさんに影響を与えた事件など、エピソードあれば知りたいです。

ワカ

私を襲った3つの不運★その1 ★

6歳のときの父の死(当時「肺病」と恐れられ、「ひとには絶対いわないように」と)。

母は奥様から一転、内職させていただく身に。
傘も靴もなく保育園もなく、油紙でつくった合羽、
5歳の弟の手を引いて一駅歩いて祖母の家に。

ピアノの上の「き父」と母の写真



19歳で女子大を退学させられて結婚

26歳で「未亡人」に



消化器内科が専門の祖父、自身の余命を推定、
「生きているうちに嫁（かた）づけなければ」と

★私に訪れた幸運・その1

私の「なぜ？」を褒めてくれた最初の人、
借家の家主の神田隆さん。
当時は売れない左翼の俳優
後に「おゆしも、ワルよなあ」の悪徳商人役、佐藤栄作首相役に。
あとで知った、実は、帝国大学化文科卒。



なぜ、土地はみんなのものじゃないの？
なぜ、シャイロックは悪者にされるの？

★私に訪れた幸運その2

鱗粉を比較して「蝶は蛾の一種」というの「発見
(高校の夏休みの宿題)

★私に訪れた幸運・その3

ABO血液型の本体を見つけた叔父
「ゆっこの父親は偉いんだぞ。なぜかという、
教授の望む結果どおりにしなかった」

オパーリンの
コアセルベーション仮説に感動



生化学者を目指して理科IIへ



競争心のない私には不向き
「キューリー夫人伝」と違う世界



私の不運★その2 ★ ⇒幸運その4

英語が超不得意

⇒ドイツ語で受験⇒朝日新聞に奇跡の合格



「女子選手村には男が入れないのでやむなく」
(当時の新聞社の考え。翌年から7年間は採用ゼロ)



幸運その5

竹内広支局長のもとへ

「3つの教え」

⇒3000通の年賀状

⇒19ヶ国6000人とつながる「えにしメール」

「3つの教え」 朝日新聞 2001.3.31 夕刊(窓・論説委員室から)

初めての職場は、一階が焼き鳥屋というビルの上にあった。
浅黒い顔の支局長は、新しい黒革の住所録をテーブルに置いて、厳かにいった。
「これからここに書く人たちが、君の財産だ」

その住所録はボロボロになった。代を重ね、いまはパソコンの住所録の一部になっている。
駆け出し時代の取材先には亡くなった方もいるが、以来何10年もお付き合いが続いている人も多い。
数えてみたら5000人近い。

支局長の言葉通り、私のかけがえのない財産である。
屋に起きた事件を夕方には説得力ある社説に仕上げなければならない。
そんなとき何度、この財産に助けられたことか。

もう一度、38年前に戻る。支局長はこう続けた。
「10を取材し、9捨てて、1を書くこと。」

1を聞いて10を知るヤツは記者としては落第だ」
この言葉が骨の髄までしみこんだのか、1本の社説を書くために、
スーツケースとリュックに資料をつめこんで出社するのが習慣しになってしまった。
その重さをひそかに量った同僚が忘年会の当てものクイズにした。
21キロだった。

「恵まれない施設の子に、プールの贈り物」と書いて、
支局長にこっぴどくしかられたときのことも忘れられない。
「『恵まれない子』という文字をその子たちが読んだ時、どんな気持ちができるか、想像してみたのか」
ボランティアを紹介する際にはボランティアされる側を、
医療や介護の記事を書くときは、医療や介護を受ける身のことをまず考えてしまう。
それは、あのときの怖い顔のせいかもしれない。

朝日新聞を去る前日、その支局長竹内広さんにあいさつした。
新人の目にあれほど大きく映った人が、当時36歳の若さだったことを知った。〈雪〉

★私に訪れた幸運 その6

科学部⇒論説委員室へ

グラフやnewsを社説に盛り込むことを
面白がってくださった

広瀬道貞副主幹

たとえば。。

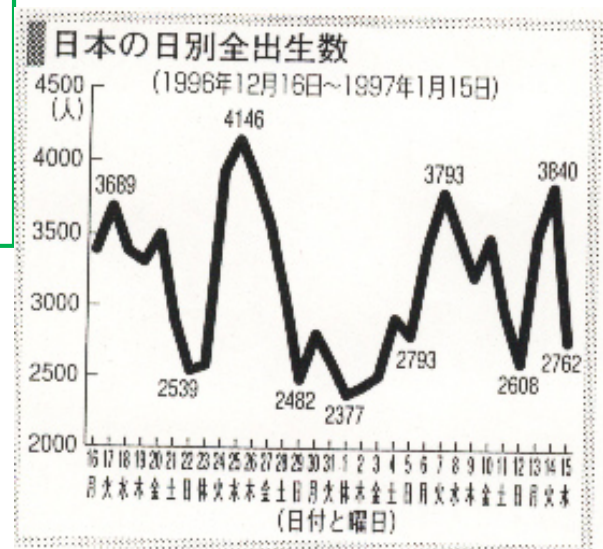
駆けつけた勝村久司さんに主治医はいった。
「赤ちゃんはたぶんダメでしょう。奥さんの
方は2、3日が峠でしょう」

理栄さんは何日も死線をさまよった末、命
はとりとめたが、星子ちゃんと名付けられた
赤ちゃんは、わずか9日間、保育器の中で生
きただけで亡くなった。

なぜ、こんなことに？

高校の理科の教師である久司さんは、その
謎をつきとめようと決心した。

まず、分かったのが、「子宮口を柔らかく
するお薬」の正体だった。



★私に訪れた幸運 その7

審議会・検討会のカラクリを学ばせてくださった

松山幸雄 論説主幹

審議会 検討会 で知った「先生」呼ばれる麻薬

いま、それを活かして

★施設と癒着した県議会・県庁職員

「やまゆり園事件」と黒岩祐治神奈川知事

「のために」⇒「の目線に」

★世田谷区認知症施策評価委員長の特権で

認知症ご本人を条例検討委員会に

予防から備え・サポーターからパートナーへ

「認知症と生きる希望条例」

死に際の「ACP」ではなく、「私の希望ファイル」

「法務がダメともうしますのて」との攻防

★私に訪れた幸運その8 北欧との出会い 英語が不得意なのが項を奏して

高齢福祉政策の父・アンデルセン大臣

全盲の厚生大臣・リンクビストさん・

ノーマライゼーション思想の父バンクミケルセンさん

との深い絆

「寝たきり老人」は「寝かせきり」にされ、

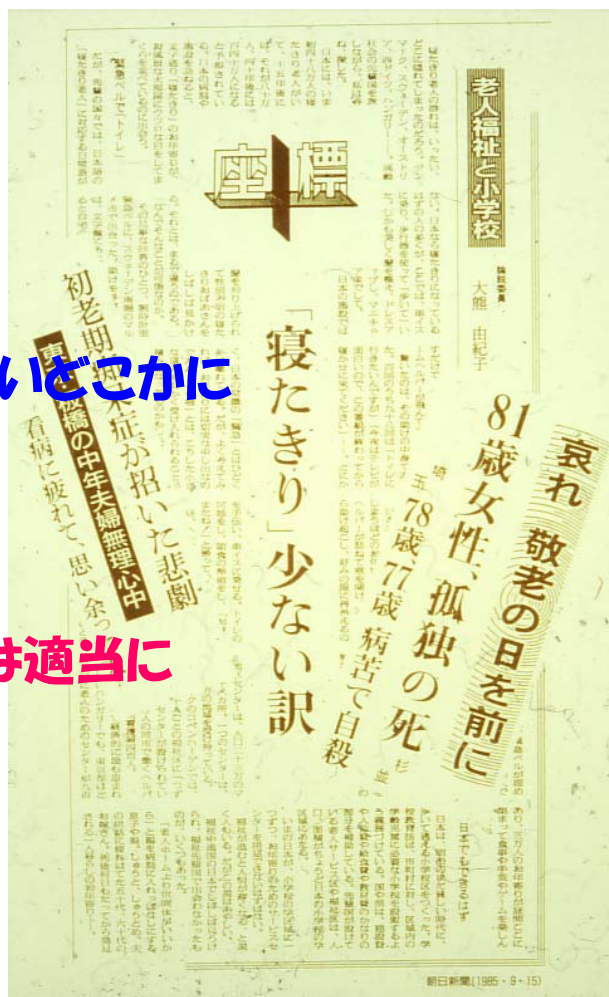
廃用症候群になった被害者という「発見」

こわごわ書いた
1985年朝日新聞一面の
大型コラム

反応は案の定、反論の嵐.....

外国からの客には分からないでここに
隠されているのだろう

寝たきりになるような年寄は適当に
死なせているに違いない



デンマークでは
ホームナースと生活の節目に現
れるホームヘルパーが
誇りを膨らませるフロ



「寝たきり老人」という概念のある国 とない国があるという「発見」

1985



薬縛り!!!!!!!

そして、日本でも。。。



1年10ヶ月「寝たきり」
だった菊川さん(松原市で)

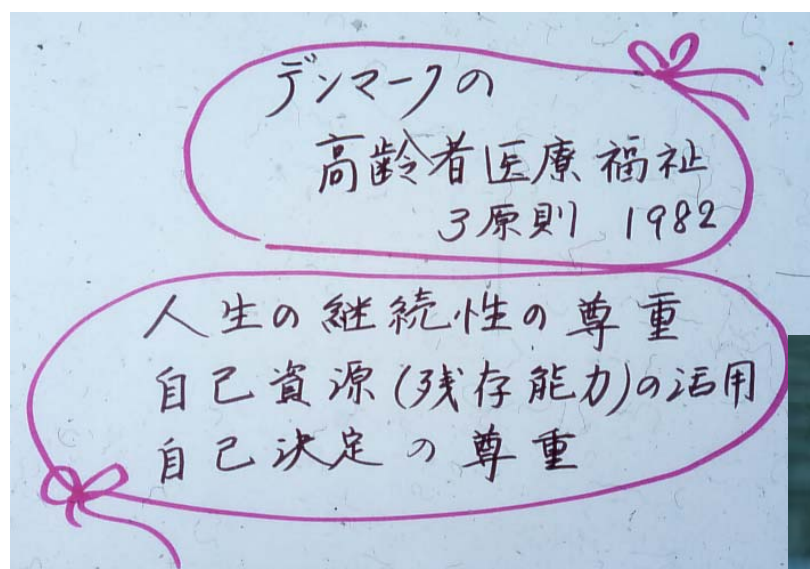
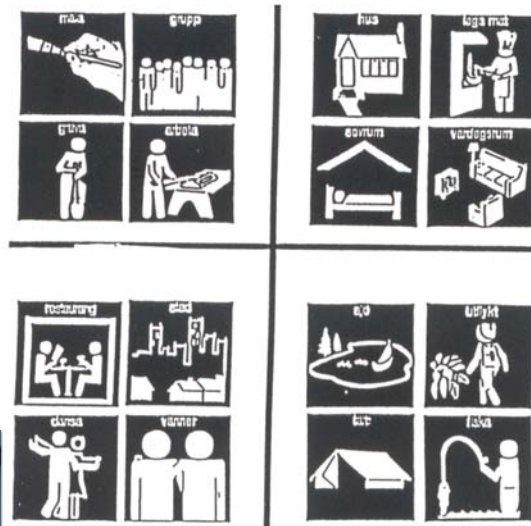
究極のボランティア
レジスタンスの闘士⇒
福祉局長
バンクミケルセンさん

どんなに知的なハンディ
キャップが重くても、

人は街の中のふつうの家
で
ふつうの暮らしを味わう権
利があり

社会はその権利を実現す
る責任がある。

1959年法(デンマーク)



アンテルセン教授
専門は自治体行政
と経済学

↓
アンテルセン大臣

1989日本に招待

戸井田厚生大臣と縁結び

シンポジウム

「寝かせきりゼロ」を求めて
包括性・継続性・市町村の権限





思い出の家具に囲まれた
デンマークの自分の部屋
と
日本の回廊式
と

デメンシアと呼ばれる人々の
異常な行動は
異常な環境と
異常にケアへの
正常な反応です

オーストラリア
クリスティン・フライデン



フィンランド発オープンダイアログ

英語でなくフィンランド語で話していただいてわかった「真髓」

「本人にいないところで

その人の診断や処方をしていないことにした、あの日のこと」



(神保康子さん撮影)

★私に訪れた幸運その9

1990年
第1章の
「12の秘密」は
介護保険のメニューに

第3章

「法律破りをどうぞという制度」
(フリーコムン)は
「特区」として実現



⇒阪大大学院から、
「新設の大学院講座の教授に」というお招き

私を襲った3つの不運・その3 ⇒幸運・その10★

数々の仕事を一緒にした
大熊一夫との別れ

★「ルポ・精神病棟」

アル中の夫に疲れた妻を装って(←なだ・いなださんとの出会い)
電話機の横でスゴむ男。

遺書を書いてフトンに隠したある真夜中のこと

★千葉大チフス事件 冤罪キャンペーン

★認知症キャンペーン

孤独のうしろに自由がある(岸恵子さんの言葉)
24時間すべてが自由に使える時間に

福祉と医療・現場と政策の「新たなえにひ」を結ぶ
「えにひメール」と「えにひ」のHP、ことう20回の「えにひ」の会
そこから生れたさまざまな運動

巻頭言

FOR 友へ YOU
「知らなかつた
ごめんよ」

大熊由紀子
(朝日新聞読者委員)

ある真夜中、私たちの住むアパートに、一人の男が現れた。連環中の「ルポ・精神病棟」に文句があると大きな声でいう。隣家に申し訳ないのでIDKのわが家に招き入れた。

夫が潜入していた病院を退院してきただけの人物だった。連環の趣旨には、異論はないらしい。ただ、自分の振る舞いが道化っぽく描かれていて、仮名とはいえずしく名譽を傷つけられたと興奮し、「どうしてくれるんだ」とすこむ。夫がいくらか説明しても聞き入れない。後ろにドスを忍ばせてあること、組に属していたことをほのめかす。電話の横に座り込んでいるので、

「一〇番もできない。私は幼い娘が眠っている隣室に行つて「遺書」を書いた。「もし、私たちが殺されて見つかったなら、犯人は……」。それをふとんの下に隠した。その時、ベルが鳴った。私は当時、科学部で健康面を受け持つており、ルポに合わせて「精神病院選び方の18章」という一ページ特集を企画していた。その相談にのつてくださった精神科医の一人からの電話だった。私はガラを読み上げていった。

第一章 外観 まどわされるなかれ
第三章 車の便 感服することなかれ
第五章 ハナ 病室でピクピクさせよ

第七章 患者 みな眠そうなら眠え
第十八章 地域家族会 出席すべし
読み終わった時、男はぼつりと言た。「おれたちのこと、こんなに思てくれたなんて、知らなかつた。ごんよ。さよなら」

精神病院の退院者に偏見を持つていけない、と頭では納得し、記事に、何度も書いていた。けれど、心からう思えるようになったのは、この日、からだだった。

あれから十八年たった。

全家連は、見違えるほどの組織に成長した。小規模作業所の活動も目覚ましい。「遠い外国の話」として健康面で紹介したナイトホテルやハーフウェイハウスの考え方も不十分ながら精神保健法に盛り込まれた。

しかし、カナダやヨーロッパの国々との差はあまりに大きい。これらの国のモデル都市では、病院を縮小し浮いたヒトとカネを外の受け皿づくりにつぎこんで成果をあげている。こうした見識と計画性は日本の政治、行政、精神病院長には期待できないのだろうか

由紀子さんの旅立ちをお祝いし、新たな縁を結ぶ会

2001.5.12 プレスセンターホール

呼びかけ人

(当事者ネットワーク)

池田省三(介護の社会を進める一万人市民委員会)
 勝村久司(医療情報の公開・開示を求める市民の会)
 川内美彦(障害をもつ人の権利リーガルアドボカシー)
 見坊和雄(老いを共に楽しむネットワーク)
 佐々木信行(ビープルファーストをはなしかあう会)
 佐藤さきよ(ベンチレーター使用者ネットワーク)
 高岡正(全日本難聴者・中途失聴者団体連合会)
 田中徹二(障害分野NGO連絡会)
 多田宮子(さくら会)
 芳賀優子(弱視者問題研究会)
 樋口恵子(高齢社会をよくする女性の会)
 樋口恵子(全国自立生活センター協議会・JIL)
 山崎多美子(全国精神障害者団体連合会・ぜんせいねん)
 山田昭義(障害者インテリゲンシヤルDPI)
 渡辺啓二(ジョイントプロジェクト)

(支援ネットワーク)

池田昌弘(宅老所・グループホーム全国ネットワーク)
 伊藤哲寛(精神医療をよくする市民ネットワーク)
 北岡賢剛(全国地域生活支援ネットワーク)
 熊谷崇(日本ヘルスケア歯科研究会)
 小村洋二(患者の権利法をつくる会)
 菅原弘子(福祉自治体ユニット)
 高橋儀平(福祉のまちづくり研究会)
 高見国生(果け老人をかかえる家族の会)
 坪井栄孝(女性・こども・命・未来を守る会)
 藤井英徳(共同作業所全国連絡会)
 藤田康幸(医療改善ネットワーク)
 別府宏樹(正しい治療と薬の情報)
 星川安之(日用品を広めるネットワーク)
 山岡義典(日本NPOセンター)
 リアン・スンチ(日本ホスピス・在宅ケア研究会)

(自治体)

浅野史郎・宮城県知事
 岩川 徹・鹿野町長
 國松善次・滋賀県知事
 坂本祐之輔・東松山市長
 潮谷義子・熊本県知事
 福田昭夫・栃木県知事
 光武 顕・佐世保市長
 森 直述・高浜市長

(厚生行政)

伊藤雅治・医政局長
 篠崎英夫・健康局長
 今田寛睦・障害保健福祉部長
 堤修三・老健局長
 大塚義治・保険局長
 辻哲夫・年金局長
 中村秀一・審議官(医療保険担当)
 河幹夫・参事官(社会保障担当)
 山崎史郎・老健局計画課長
 香取照幸・内閣府参事官(社会システム担当)

(朝日新聞社)

佐木木俊郎(論説主幹)
 田辺功(編集委員)
 内山幸男(科学部長)
 田井敏男(社会部長)
 吉田慎一(くらし編集長)
 川名紀美(論説委員)
 伊中義明(論説委員)
 浜田秀夫(論説委員)
 高橋真理子(論説委員)
 和田公一(社会部)

福祉と医療・現場と政策を隔てる
 深くて広い河に橋を架け
 絆を結ぶために



ことしは第20回を迎える「新たなえにし」を結ぶ会
 ⇒「3密」をさけてスームでシンポと「縁結び」という冒険



指点字

「あらたなえにし」を結ぶために
不可欠な情報保障

パソコン文字通訳



えにしの集い2013
若年認知症のお二人のトークに
夜の部パネリストの副大臣も感動!!!!!!



プログラム

13:00 開会 プレスセンターホール

13:05 ~ 14:45

第1部 連携シンポジウム

「住みなれたまちで、若い・障害・病気・認知症と仲良く暮らすために」

- ☆ 認知症で悩む人も受けとめるホームホスピス「かあさんの家」の市原美穂さん
- ☆ 日本で初めて施設を解体した雲仙の田島良昭さん
- ☆ 「新しい地域医療の構築」に取り組み日本医師会長の横倉義武さん
- ☆ ユニバーサルデザインを熊本県政の理念に昇えた、いま、日本社会事業大学理事長の潮谷義子さん
- ☆ 「住みなれた地域で自分らしく」を掲げる厚生労働省老健局長の原勝則さん

コーディネーター：野澤和弘さん（毎日新聞論説委員）

14:45 ~ 15:15 ♪ えにし 結びたい・む ♪

スクリーンには、「コンボ」や「クッキングハウス」の統合失調症の方々の笑顔の写真、ALSの記者の活躍などを次々と

15:15 ~ 16:30

第2部 立体シンポジウム

「冤罪をつくる構造～警察官・検察官・裁判官、そしてメディア」

- ☆ 「ストーリー」通りの供述調書をつくられた運転手の二階堂基一さん
- ☆ 「日本一の福祉のまち」をつくったことで知られた秋田県田舎町長の岩川康さん
- ☆ 冤罪で囚われた身になった村木孝子さんと、支えきった太郎さんと夫妻
- ☆ 村木さんを救い出した船説弁護士・弘中修一郎さん

コーディネーター：大熊一夫さん（ジャーナリスト・元大阪大学大学院教授）

2013.4.27 SAT.

ことしもまた、新たな縁(えにし)を結ぶ会 '13!

16:30 ~ 18:00 ♪ 長めのえにし 結びたい・む を夜の会場のそばで♪

18:15 ~ 21:00

第3部 大討論会

内幸町ホール

「日本にも、本格的な認知症の国家戦略を!!!」

- ☆ 若年認知症のご本人、佐藤雅彦さん & 中村成信さんの掛け合いトーク
- ☆ 認知症で本人が政策の成果を評価する「京都方式」をつくり、ことしも1000人を一堂に集めた森俊夫さん

☆ デンマークに学び、認知症コーディネーターを

386 時間の実のある研修で8割 76 人誕生させた大牟田の大谷のみ子さん

☆ 認知症の母上を自宅で看取った東京府医師会長の野中博さん

☆ 認知症施策5カ年計画（オレンジプラン）を推進する厚生労働省の副大臣・秋篠敬悟さん

☆ 共生ケアの元祖、富山の「このゆびとまれ」の惣万佳代子さん

☆ 認知症の人の地域での暮らしを応援する佐賀県知事の古川康さん

コーディネーター：町永俊雄さん（元NHK福祉ネットワークキャスター）

総合司会 国際医療福祉大学大学院医療福祉ジャーナリズム分野卒業生 & 博士課程院生のコンビ
村上 紀美子さんージャーナリスト
緒 祐二さんー日本福祉大学福祉経営学部教授・社会福祉法人睦月会理事長



オナの度胸が社会を変える (@_@)



えにしの会での風景 厚生労働省から財務省に出向中



2019年 「新たなえにし」を結ぶ会・夜の部 「誇りのまちづくり」 9人のサムライ〜これが、ホントウの共生社会」

ことし20回 福祉と医療・現場と政策の「新たなえにし」を結ぶ会
8つのシキタリ

- a
- その1 席は、**籤引き**。恋が偶然の機会から生まれるように
 - その2 **パソコン文字通訳、手話、磁気ループ、指点字**を用意
 - その3 毎回、**news**が潜んでいます
 - その4 そんなに高名な方でも、**講演料ナシ**。それは、“権利”なのだという理屈から
 - その5 登壇は「権利」なので、「**一生に一度**」だけ。
 - その6 **モットーは前例を破ること**。〇〇先生、〇〇局長という上下っぽい呼びかけをやめ
カラちゃん、サルちゃんと呼び合って、始まる前から水平の関係が
 - その7 **縁の下のか持ち 資料配布ボラ 袋詰めボラ**
満員御礼判定 & 「えにし結び名簿」ボラ
映像配信ボラ プログラムづくりボラ 売り子担当ボラ
受付・ご案内担当ボラ 幹事長・事務局長ボラetc. etc.





お寄せいただいた質問・その3

おかあさまの「人生終わりの日々」の在宅ケアに同伴されたご経験、見送ったあとの暮らしや思い、に触れていただけると、嬉しいです。

そういう日々を在宅で過ごせる可能性については、まだまだ一般的には知られてなくて、イメージが持ちにくいようで家族は、「どこか良いところに預けると、なんとなく安心」
本人は「**周囲の人のために、どこかに行く**」という風潮があるように思います。

在宅ケアを経験した人が経験を語っていくことが、前例を超える(当事者研究?)ことにつながる大事な営みなのかな、と思っていますので。

紀美子



ピアノの上の両親 母はMerryウイドウになって80歳まで世界旅行
昔は恥ずかしかった父の丸眼鏡、いまは流行に(๑_๑)

母、90歳で悪性リンパ腫に

末期癌、要介護4と認定



病院では寝たきりオムツでした



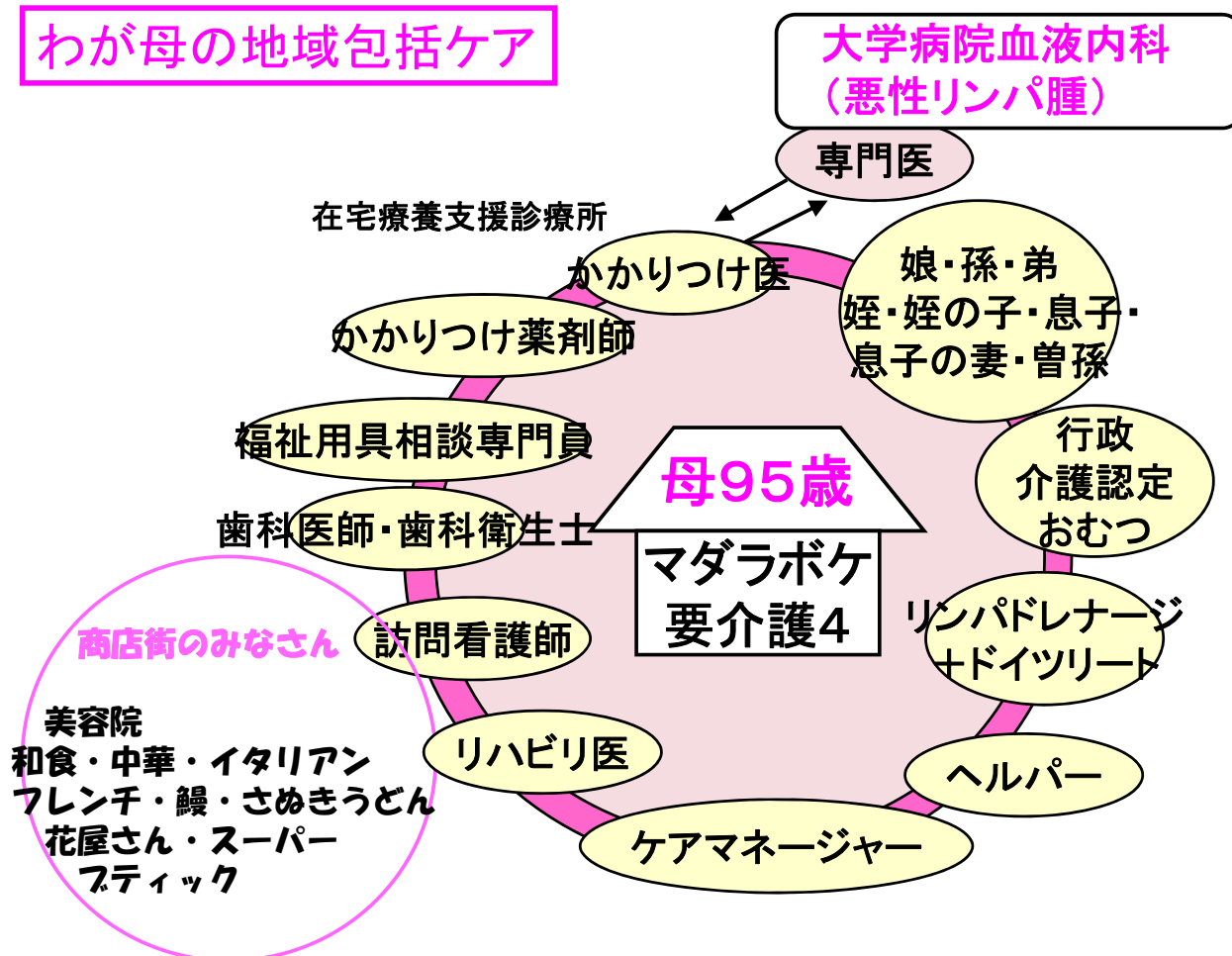
「孫のサイタルに出たい
どんなにキツいくすりでも」
奇跡のようにクスリが効いて



同じ日の夜の母
入れ歯とウィッグ眼鏡
という名の福祉用具を
はずすと、
療養型に「入院」しているひとに
そっくり。ということ。。。

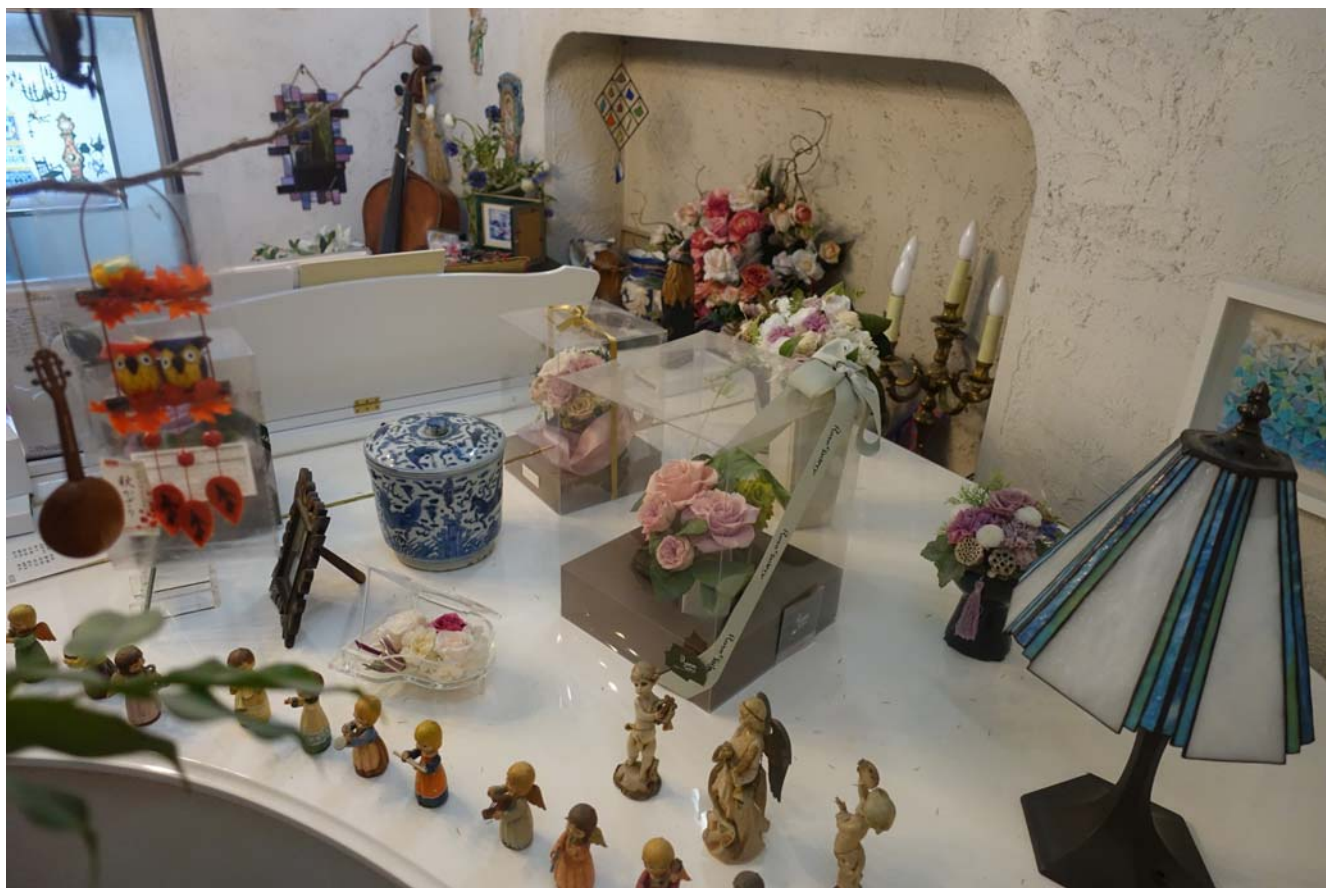


わが母の地域包括ケア





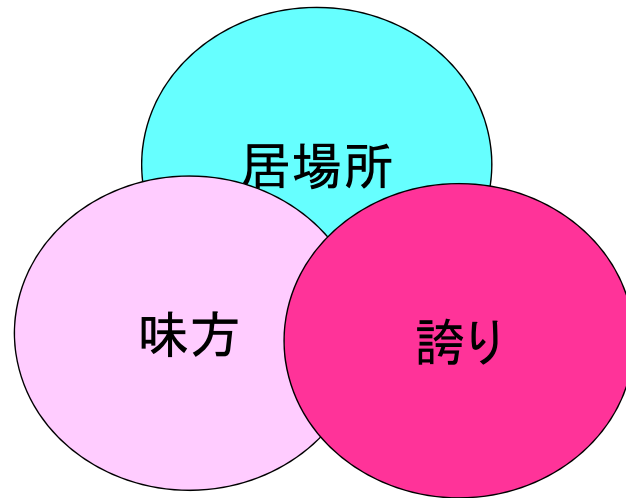
お気に入りの店の大将と女将さん。ブログに亡き母のことを。



「私を苛めた姑さんと同じお墓は嫌」と自己決定。自分で選んだ壺の中に

前例を超える・前例を創る

言葉は魔術・言葉は思想・言葉で変える



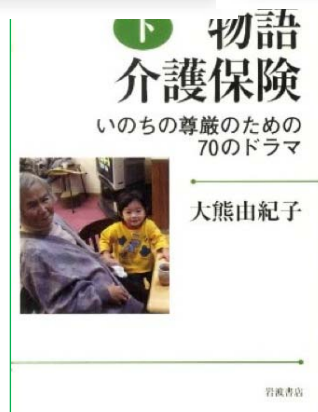
北欧・日本のあちこち、
そして母を看取って気づいた人生に大切な3つのこと

クローさんの世直し7原則



- グチや泣き言では世の中は変えられない
- 従来の発想を創造的にひっくり返す
- 説得力あるデータにもとづいた提言を
- 市町村の競争心をあおる
- メディア、行政、政治家に仲間をつくる
- 名をすてて実をとる
- 提言はユーモアにつつんで(^_-)-☆

★★レポート当選作には、以下の著書をプレゼント★★



秋の学期で、また (ー)/~~~~~